



デジモンテイマーズ

第23話

デジモン総進撃！  
風に向かって進め

第五稿

脚本ノ小中千昭

Animation Play by Chiak J. Konaka

2001ノ05ノ29

## 登場人物

松田 啓人「タカト」(10)	
李 健良「ジェン」(10)	
牧野 留姫「ルキ」(10)	
メガログラウモン	クルモン
ラピッドモン	インプモン
タオモン	
塩田 博和(10)	北川 健太(10)
加藤 樹莉(10)	
松田 剛弘(41)	タカトの父親
松田 美枝(35)	タカトの母親
李 鎮宇( )	ジェンの父親
牧野ルミ子(28)	留姫の母
秦 聖子(49)	留姫の祖母
山木満雄(32)	ネット管制室長
鳳 麗花(26)	チーフ・オペレーター
恵	
技術担当リーダー	
ヘリパイロット(声のみ)	
ニュースレポーター(声のみ)	
ヒュプノス合成音声	
マクラ君くマクラモン	ヴィカラーラモン
ヴィカラーラモン	スーツェーモン(影と声のみ)
レオモン	

前話リプライズ/ネット管理局・管制センター

技術者「出力100%。シャッガイ起動」

山木「……消えてなくなれ」

倒れた鎮宇が叫ぶ。

鎮宇「やめろ——————ッ!!!!」

都庁地下/R&Dセンター

壁の巨大な光ファイバー網、緑がかった凄まじい光を走らせ始める。唸るタービン音。

都庁外観/屋上

暗い空に聳える二つの塔。その内部から発せられる莫大なパワーのイオン化電荷が、二つの塔の間に生まれ、時空を曲げるかの様な力場を発生させ始めた。その向こう——

明治通り/パワーステーション前

ドドオオオオン！ ドドオオオオン！

中央分離帯の標識を押し潰しながら、巨魁ヴィカララモンがゆっくりと新宿三丁目に向かって侵攻。

上空に陸自のヘリ部隊が接近。

メガログラウモン、巨魁の前に立つ。

上空よりタオモンとラピッドモン、飛来し——

三体のデジモンが巨獣の前に立ち向かう！

パワーステーション脇に駆け出してくるタカト達。

テレビ画面

ヘリから俯瞰したヴィカララモンの巨体。

画面、ノイズが酷く混入している。

中継アナ「（オフノ激しいノイズではつきり聞こえない）新宿に現れた巨大生物は明治通りを南に侵攻中です！ 現在新宿区域には避難勧告が発令されており――（ノイズ）」

けやき橋通り商店街

上空を飛ぶヘリ群。避難を始めている商店の人々。警官が誘導している。

まつだベーカリー店内

がちゃん。受話器を置く美枝。

美枝「（苛立たしげに）電話も通じない！ タカトはどこなのよ。ねえ荷物少しはまとめてよ！」

剛弘「お前、先に避難してろ。タカトが戻ったら必ず連れてく」  
美枝「何言ってるのよ」

ドンドンドン！ 入り口を叩く警官。

警官「避難、急いで下さい！」  
一瞬、黙る二人――。

美枝「（警官に振り向き）子どもを待っています。来たら避難しますから」

警官「そうですか。危ないですから早くお願いします！」  
美枝、上がりがまちに腰を下ろす。

美枝「腹くくったわよ……」  
剛弘「（力なく笑い）待ってたって同じか……。探しに行こう」

明治通り

ジェン「（見上げて）ラピッドモン！」

ラピッドモン「ラピッドファイア！」

ドドドドドド！ 炎弾が巨獣に炸裂！

痛撃に咆哮する巨獣！ その開かれた口蓋から、粘



明治通り

慄然と見上げるジエン。

ジエン「なんで——、なんでこんな事になっちゃうんだ……」

同ノ地下R&Dセンター

ゴオオオオオオ！ シャツガイ・システムが凄まじい輝き、凄まじい音で稼働している。

ネット管理局ノ管制センター

ヒュプノスが次々と緑色に染まっていく。

恵 「シャツガイによるネットワーク制圧、レイヤー4まで進行中」

麗花「——こんなことして、いいの……？」

山木と鎮宇もそこに来てスクリーンを見上げ

山木「人が命を作ろうなんて、おこがましいとは思わなかったんですか？（皮肉）」

鎮宇「——（苦渋）」

仮想ウィンドウが開き、明治通りの様子がノイズ混じりに映し出される。

鎮宇「（ハッ）」

山木「これがあんたたちがした事なんだ！」

鎮宇「——なんて事だ……」

明治通り

マグマ状エネルギー塊、メガログラウモンを地に伏させている。

タカト「メガログラウモン……」

留姫、腰からカードの束を出し——

留 姫「（動揺）どうしよう！ どのカード使えばいいの？」  
ジエン「——」

ジエン「（自分のDアークを見て）カードは、僕たちの信じる力」  
留 姫「えっ？」

ジエン「僕たちが、力を信じられなければ、カードはただのカード——。そうさ、進化のカードだって、僕たちが信じられたから、このデジヴァイスが力を伝えてくれる」

留 姫「——（タオモンを見上げ）そう、そうだよね！」

留 姫＋ジエン、カードスラッシュ。

留 姫＋ジエン「カードスラアッシュ！——運命の煌き！」

管制センター

全周スクリーンの一部に、小さいながらも、隣接した二つの輝きが。

山 木「——子どもの遊びも、これまでだ……」

鎮 宇「——ジェンリヤ！」

仮想スクリーンに映るジエンの姿。

明治通り

カードの輝きを受け取ったタオモン、粘性の闇を渾身の力で振り切り、九字を切る。

タオモン「ラジャス！」

梵字「ラ」型の輝きが一閃、ヴィカラーラモンの口の中で、粘性の闇を切り裂いて「道」を作る。

タオモン「ラピッドモン！」

ラピッドモン「おっおーっ！」

ラピッドモン、背の羽根からターボブースト！  
キイイイーン！ 凄まじい速度でタオモンが作った道の中を進み、全門開放！ 撃つ！ 撃つ！ 撃つ！

ヴィカラーラモン「ぐわおおおおおおおおおおおおんんんん」

ドドドーン！ 口蓋の中で起こる爆発。

ラピッドモン「やりーっ！ いける！ 倒せるよジェン！——」

ハツと見上げるラピッドモン。

暗い空に、緑のグリッドが描かれていく。  
ラピッドモン「あれ——、力が——、抜けていく……」

タオモン「オン（＝梵字！）」

タオモン、九字を切り自己の周囲に曼陀羅円を描く。  
タオモン「ラピッドモン！ こっちに！」

ラピッドモン、タオモンの張った結界内へ。

ジェン「（見上げ）何が始まった？」

呆然と立ち尽くしているだけのタカト。

管制センター

恵「シャツガイの制御領域、物理レイヤーに達しました」

山木「アハハハハハ！ 私はあんた達とは違う！ 私は力の使  
い方を知ってる！」

鎮宇、仮想ウィンドウのジェンの姿を見つめ

鎮宇「くっ！（部屋を出ていく）」

山木「（嘲笑）もうあんたらに出来る事なんてないさ！」

同／廊下

都庁中層の窓脇の回廊。

山木、出てくると、警備官が二人、前に立つ。

警備官A「勝手な行動は禁じられています」

鎮宇「——」

無言で通り過ぎようとする鎮宇、その腕を強く掴む  
警備官。

警備官A「聞こえないのか？」

鎮宇「——（気合）」

掴んだ腕をサツと持ち上げ、最小のモーションで痛  
打を与え、続いて襲いかかるもう一人も倒す！

鎮宇「（窓を見て）——ジェンリヤ！」  
駆けていく鎮宇。



明治通り

ジエン「タカト君」

虚ろな顔で立っているタカト。

ジエン「タカト！」

タカトの肩を揺するジエン。

タカト「——ギルモン……」

ジエン「しっかりしろ！」

タカト「——僕、判らないよ……」

留 姫「何がよ！」

タカト「何でデジモンは進化すると、大きくなって、武器とか強くなつて、どんどん友達じゃなくなつちゃう。それが進化なの？ そんな事が進化なの？」

留 姫「——友達だよ」

タカト「え……」

留 姫「どんなに大きく、強くなつたつて、タオモンはレナモンの時と同じ、あたしの、友達」

タカト「留姫……」

ジエン「——大きく強くなつていくには、理由があるんだよ」  
タカト「理由……」

ヴウウウン 空を覆うグリッドから、緑色の垂直な光がヴィカラーラモンの上に。

タオモン達、そしてメガログラウモンを覆うエネルギー凝固体に——。

タオモンが張った結界の魔法円が周縁から消滅し始める。

ラピッドモン「見て！ 消えてっちゃう！」

タオモン「我々の存在そのものを消し去る力——」

ラピッドモン「タオモン！ どうしよう！」

花園神社前

樹莉に抱かれたクルモン、ガタガタと震えている。

クルモン「く、くるるる、クルモン知らないクル。そんな事、覚

えてないでクル……（耳を塞ぐ）」

樹莉「どうしたの？」クルモン「」

ヒロカズ「おいどうしたんだよ？」

ケンタ「誰と喋ってんだよ？」

クルモン「（悲痛）クルー……ッ！」

明治通り

緑色の光が巨獣の輪郭をぼやかし始めている。

ラピッドモン「ジエーン！」

ジエン「（見上げ）ヴィカラーラモンだけじゃない！ 僕たちの

デジモンもみんな消されてしまう！ どうして——？」

背後から鎮宇の声。

鎮宇「（オフ）すまない」

ジエン「！——おとう、さん……」

ネット管制室

ヒュプノスのスクリーン、緑色の輝きを放つ。

山木「（インナフォン式電話に）——事態は間もなく收拾します。御期待に答えられて幸せです（笑み）」

と、スクリーンに文字化したかの様な意味の無い文字がスクロールし始める。

山木「（苛立ち）何だ。バグか？」

技術者「いえ——、これは——、ネットの深いレイヤーから逆に送り込まれているものです」

山木「！——また昔の機械語かよ！ 逆アセンブル！」

麗花「解読します（パネル操作）」

花園神社前

怯えるクルマモンを抱き、困惑している樹莉――

樹莉「二」

数歩前に、マクラ君が立っていた。

ケンタ「お前！」

マクラ君――、ニツと笑い――、口を開いた――。

ネット管制室

室内に響く、人工合成声。苦渋で聞く山木。

声「我等と我等が住む世界を創造した存在、人間よ」

花園神社前

怯えてマクラを見つめる樹莉。

マクラ「我等の創造者として、進化した我々にとって、人間は最早

神ではない」

樹莉「――何、言ってるの……？」

マクラ「我等は我等の世界を守る。当然の事だ。しかして人間は

我等の世界への干渉を深め、我等の世界を脅かす」

都庁全景

最上構造部から、波動が打ち出されている。

ネット管制室

声「我等はより高みに進化する権利を有している。我等の進

化、我等の世界を脅かす存在は廃除せねばならない」

山木「なんだと……！」

地下下水同内

ボロボロに傷ついたインプモンの眼前には、小型の『ゾーン』。

インプモン「——何だって……？ お前誰だよ……」

声 「強くなりたいのか。我等は皆、進化すべき存在。力が欲しいのだな？」

インプモン「——神なんて……」

しかしインプモンは自分の拳に見入る——。

#### 花園神社前

ニタニタ笑っているマクラ君。

樹 莉「やだ……」

マクラ、クルモンに近づき——

マクラ「（大声で）お前だ！」

樹 莉「きゃあああっ！」

クルモン「（いやいやと首を振り）なっとなっとなっ」

樹 莉「——（小声で）助けて……（空を仰ぎ見）」

バツと樹莉の前に立つヒロカズとケンタ。

ヒロカズ「来るんじゃないやねえよ！ 何だよ手前気持ち悪い！」

と！ マクラモンの上に、空のグリッドから緑色の

光が垂直に差し、まるでスポットライトの様。

その光を浴びたマクラの姿、徐々に変容し、デーヴ

アの一、マクラモンの姿に。

ヒロカズ「こいつ、デジモンだったのかよ！」

マクラモン、見上げ、浄瑠璃人形の如き形相で——

マクラモン「キヤアアアアアアアアアアアアアアアアッ！」

耳を抑える樹莉。

マクラモン、手にした宝玉を持って、飛び立つ。

#### 中央公園

やや離れて歩いているタカトの父と母。

美 枝「——最近よくここで遊んでるから……」

剛 弘「——」

剛弘、ふとギルモン・ホームに目を留める。

ギルモン・ホーム内

散らかったパンの包み。

剛 弘「——ウチのだ、これ」

美 枝「あの子——、いつもあんなに食料持ち出して……」

明治通り

曼陀羅が周縁から消滅していき、身を寄せ合う——

タオモン「もう私の結界は保たない」

ラピッドモン「どうしよ〜〜」

ジエン「タオモン達が危ない！ デジモンがみんな消される！」

鎮 宇「お前たちの 友達 に、本当に悪い事をした……」

ジエン「——（目を真っ赤にし、しかし首を横に振り）」

タカト「——友達……、ギルモン……」

留 姫「見て！（空を指し）あいつ！」

虚空のマクラモン、宝玉をグリッドに向けて投げる。

と！ グリッドが渦を巻き一点に凝集し始めた！

ネット管制室

ヒュプノス・スクリーンも、目茶苦茶に乱れながら

渦を巻いている。

山 木「どうした！ 何が起こっているの？」

技術者「シャッガイが——、乗っ取られました」

山 木「なんだって？」

オペレーター座のパネルが次々とショート。

恵 「きゃあっ！ あたし、もうやだ！」

恵、オペレーター座からみつともない格好で降りる。

技術者「物理レイヤーから膨大な情報が逆流してきます」

山 木「それを阻む為のICEウォールじゃないか！」

技術者「そのシステム自体が逆に使われたという事です。ここは

もう危険です。離れた方がいいでしょう」

技術者、部下に指示し山木の前から立ち去る。

山木「引き返せ。職務を放棄する気か」

技術者、立ち止まるが振り向かず

技術者「一つ聞きたい。あれって、本当に人工知性なんですかね」

山木「——」

技術者「昔の研究者たち、私は羨ましい」

立ち去っていく技術者達。

バリーン！ 天井のパネル群割れ、破片が降り注ぐ。

立ち尽くす山木の前に麗花、来る。

山木「——いいよ、君も退避して」

麗花、言葉を呑み、駆け去っていく。

明治通り

天空のグリッドの渦、凝集した一点から——、ヴィ  
カララモンに凄まじいエネルギーが吹き込まれる。

全身を真っ白に輝かせ活性化するヴィカララモン。

ヴィカララモン「ぐおおおおおおおんんんんんん」

口から放射しながら首を振り回す！

ドオオオン！ 周囲のビルが瞬時に破砕されていく！

鎮 宇「逃げなさいジェンリヤ！ 君たちも！」

留 姫「——タオモン」

曼陀羅円の中のタオモンとラピッドモン。

タオモン「——我々の力を奪う不浄の気は去ったのか……？」

巨体に似合わない、激しい動きで、再度新宿中央部  
に向かつて侵攻を始めるヴィカララモン。

ズズーン！ ズズーン！

再びヘリ部隊が攻撃。サイドワインダー発射！

着弾するも、ひるまないヴィカララモン。

エネルギー弾を口から吐く！

すんでで攻撃をかわすへり。しかしエネルギー弾は  
烏賊道楽の看板を撃破！

樹莉の声「松田くーん！」

ハツと振り向くタカト。

クルモンを抱えた樹莉達が駆けてくる。

ジェン「こつちに来ちゃダメだ！」

樹莉「ごめんなさい！でも、あの変な子、デジモンだったの」

留 姫「えっ？」

ケンタ「変な事喋っててさ」

ドオオオオン！

また背後に爆発。

鎮 宇「子どもたちがこんなところにおいていい筈が無い！頼む  
から逃げてくれ！（悲痛）」

タカト「——ジェン」

ジェン「——え」

タカト「ジェンも、言ったよね。どんなに進化したって、デジモ  
ンは友達でいるんだって」

ジェン「——うん」

タカト「友達は、友達を助けるもの、だよね」

ジェン「——そうだ。みんなを助ける為に、僕たちはここにいる」

タカトの顔、少年の、戦士の顔になっている。

両手の拳をぎゅっ、と握り締め——、

タカト、全身に力を込めて——、

タカト「——くっ、だああああああっつつつつつ！！！！！」

まるで見えない壁がそこにある。

しかしタカトは、それに向かって、渾身の力で、一  
歩、一步、前に進んでいく。

留 姫「タカト……」

タカト「うわああああああっつつ！だああああああっつつ！」

Y字交差点前に固着したマグマ塊。

その中から——、メガログラウモンの腕が——抜け

出し——全身で——、立ち上がる！

タカト「わああああああああっつつつつっ！」

一步、一步、前に進むタカト。

メガログラウモン、力強く全身していく！

ヴィカラーラモン、粘性の闇と共にマグマ塊を発射！

タカト、両腕を眼前で交錯させつつ――

タカト「うおおおおおおおっつつっ！」

ず、ずずっ！ タカト、それでも前へ。

メガログラウモン「ぐおおおおおんんんんんん！」

腕の刃でエネルギー弾を破碎し――

ガツ！ メガログラウモンはヴィカラーラモンの鼻

先をがっしりと掴んだ！

タカト「（これまでよりも強い抵抗を感じ）だああああっつつっ！」

ジエン「うおおおおおっ！」

留 姫「わああああああっ！」

タオモン、ラピッドモンも降り立ち、メガログラウ  
モンの背後に立つ。

メガログラウモンの声「――タカトの声、タカトの気持ち、タカ

トの力、感じた」

ズザザザザザザザ！

メガログラウモン、巨大な相手を後方に押し始める。

錯乱したヴィカラーラモン、マグマ塊乱射。

しかし、ラピッドモン、あまりに早い動きでそれら  
の行き先に回り込み、撃破。

留 姫「タオモン！ 今よ！」

タオモン、虚空に巨大な梵字「キャ」を描く。



それは粘性の闇を一挙に消滅させる。

タカト「（最大の叫び）ぐあああああつっつっ！！」

メガログラウモン、一気にヴィカラーラモンを押し飛ばし——、全身を真っ赤に輝かせ——

メガログラウモン「（必殺技）」

あまりにも強烈なるメガログラウモンの攻撃。

ヴィカラーラモン、量子分解し始め——爆発！！！！

都庁全景

天空のグリッドの渦、一瞬輝き、消滅。

ドオオオオオン！ 中層部から火が吹いた。

明治通り

鎮 宇「——これが——、本当のデジタルモンスター……」

ガクツ、膝をつくタカト。

タカト「はあ、はあ、はあ……」

樹 莉「松田君！」

駆け寄ってくる樹莉。

その時！ マクラモンがサツとクルモンを奪取。

ヒロカズ「アツ、クルモンが！」

ジエン「えっ……」

クルモン「くる〜（泣きそう）」

マクラモン「我等がより高みに進化する為のもの。これが収まる

べきところに再び戻す」

留 姫「何言ってるのよ！」

タカト「クルモンはモノじゃない！ 返せ！ 友達を返せ！！」

タカト、マクラモンに向かってダッシュ！

しかし——、捕まるすんでに虚空に昇るマクラモン。

タカト「（よろけて倒れ）あうッ！（見上げ）クルモオオン！」

今はいない巨獣が切り裂いた、デジタル・ワールド



二人、タカトの顔を見る。

タカト、顔を空に上げた。髪が風になびく。  
タカト「僕たちが助けにいくんだ。デジタル・ワールドに！」

「KAZÉ」スタート/以下音楽押し

ジエンと留姫、啞然としていたが——、タカトの表情に打たれ——、二人も希望を取り戻した顔に。

見つめ合う三人。

と、上空から取材のヘリが飛来。

タオモン、九字を切って無数の札を撒き煙幕を張る。  
ラピッドモンは何処かへ飛び去り——

メガログラウモンは、ヴィカラーラモンが破碎した道路を掘り、地中へもぐり込んでいく。

### 都庁前

消化され煙を上げている都庁舎。

それを呆然と見上げている山木——。

### 花園神社境内

駆けていく子どもたち。

タカト、ジエン、留姫、ヒロカズ、ケンタ、そして  
レオモンと、樹莉。

そして、いつしかギルモン、テリアモン、レナモン  
も一緒に。

子どもたちの顔は、明るい。底抜けに。

彼らには、未来しかないのだから。

### 黒味にスーパー

S「ティマーズは冒険に旅立つ。

デジタル・ワールドへ」